

ラリーで知る多摩市の農業

日本農業新聞掲載日：令和7年11月6日（木）

多摩市農業委員会は10月下旬、農業ウォッキングラリーを開いた。市内の農家を徒歩で巡り、収穫体験と意見交換会を行うイベント。事前に応募した参加者22人、山崎美樹子副市長、JA東京みなみ多摩地区青壮年部役員らが参加し、市の農業委員が引率と指導をした。

多摩ニュータウンを中心とした都市開発で市内の農地が急速に減少するなか、市民に都市農業の存在と重要性を知り、親しみを持ってもらおうと毎年実施する。

ラリーでは農業員の圃場（ほじょう）で、須藤忠志さん（76）のミカンとキウイフルーツの収穫を体験、増田保治さん（56）の菌床シイタケ栽培を見学した。小形勝さん（80）の畑でレモンを収穫し、JA多摩支店にて意見交換会を開いた。

市農業委員会の萩原重治会長は「都市化が進む中、意見交換会は市内の農業の現状について話し合いができる貴重な機会。今後も続けたい。」と話した。



ミカンの栽培について話しをする須藤忠志さん（右端奥）（東京都多摩市で）